

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2025年1月)

2025年1月15日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

今月の景気判断～持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

- 関西経済は、持ち直しの動きがみられる
- 10月の生産は前月比+6.0%と2ヵ月連続でプラスとなった。均してみると横ばい圏で推移している
- 11月の実質輸出は2ヵ月連続で低下。均してみると横ばい圏で推移している
- 10月の名目賃金指数は、前年比+4.2%と11ヵ月連続でプラスとなった。実質でも同+1.4%と3ヵ月連続でプラスとなった
- 11月の小売販売額は、名目では前年比プラスが続いているが、実質では3ヵ月連続でマイナスとなった

項目	現状
景気全般	持ち直しの動きがみられる
生産	横ばい圏で推移している
輸出	横ばい圏で推移している
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直している
個人消費	持ち直している
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	高めの水準となっている

生産

10月の鉱工業生産(関西)は前月比+6.0%と2ヵ月連続でプラスとなった。均してみると横ばい圏で推移している。電子部品デバイスが減少したが、電気機械、化学、汎用・生産用・業務用機械が増加した。

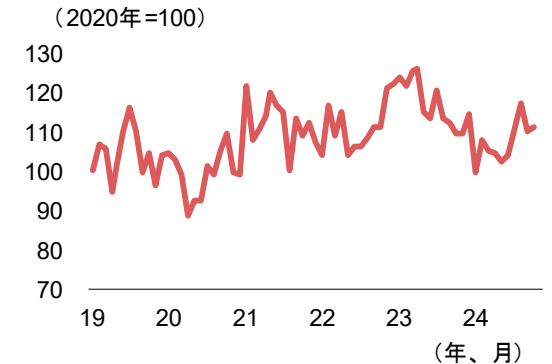
鉱工業生産指数



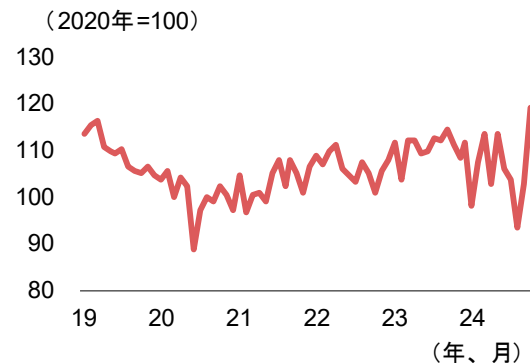
電子部品デバイス



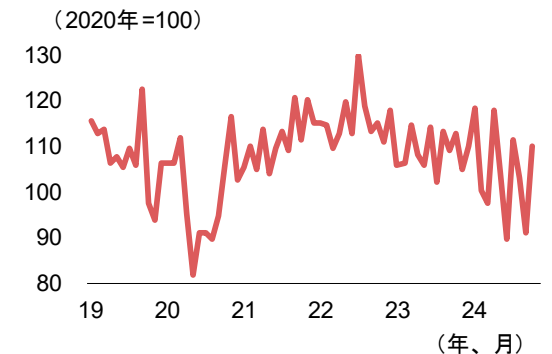
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械



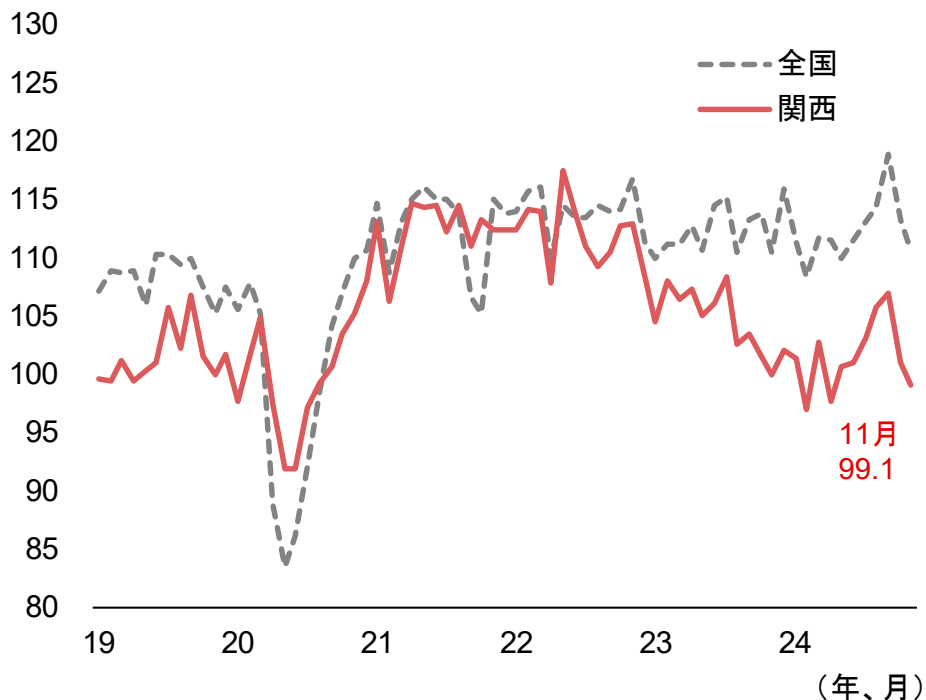
(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

11月の実質輸出(季節調整値)は、前月比-1.9%の99.1と2ヵ月連続で低下。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による11月の輸出数量指数(季節調整値)は2ヵ月連続で低下した。

実質輸出指数(季節調整値)

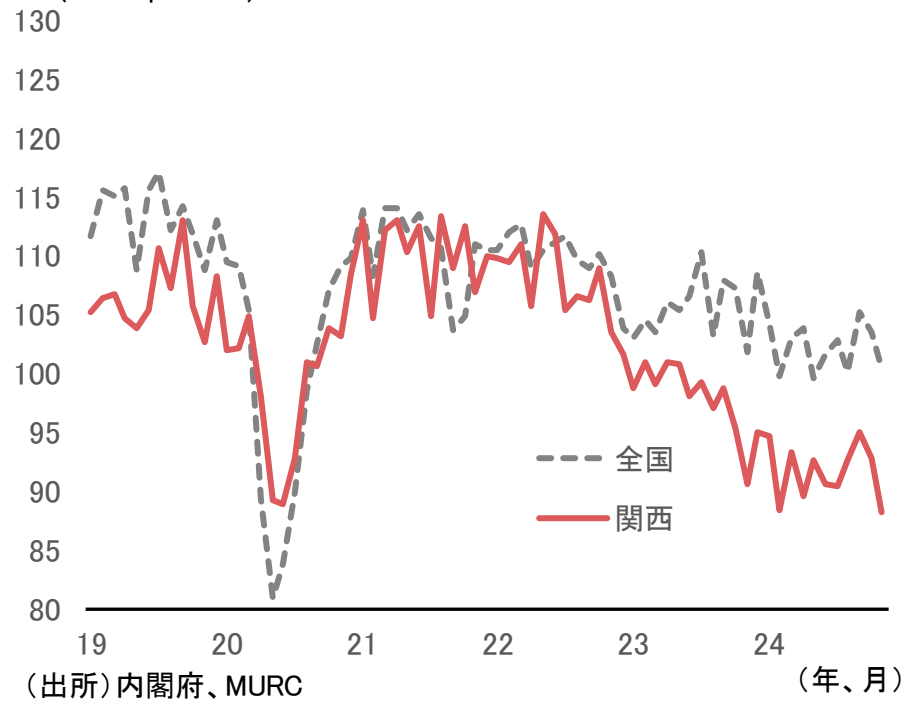
(2020年=100)



(出所)日銀大阪支店「実質輸出入」

輸出数量指数(季節調整値)

(2020年=100)



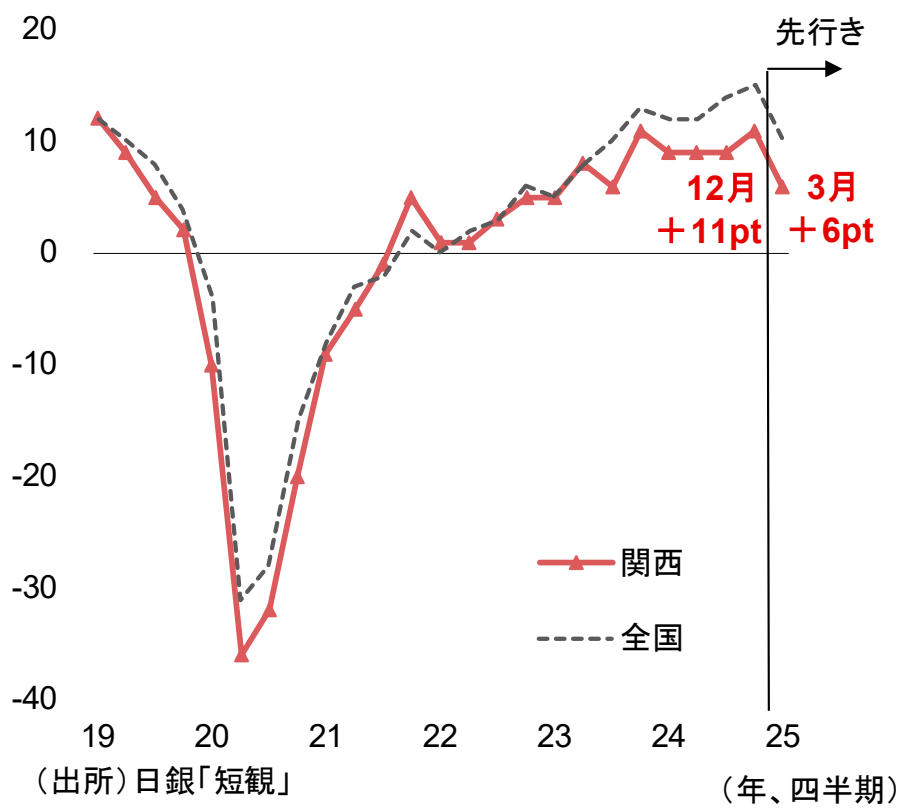
(出所)内閣府、MURC

(注)関西の数量指数はMURC試算。輸出金額(指数)を輸出価格指数(全国)で除したもの。

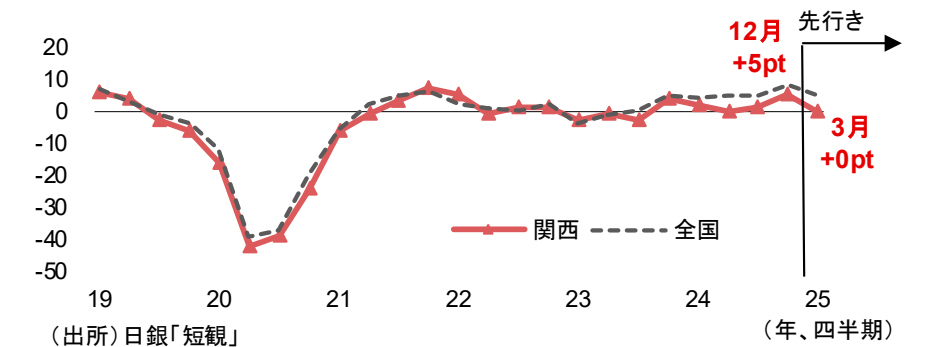
企業景況感(日銀短観)

日銀短観12月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+11ptと9月調査から改善。製造業は+5ptと4pt上昇、非製造業は+18ptと1pt低下した。業種別に見ると、製造業では石油・石炭、はん用・生産用・業務用機械が高水準。非製造業は建設、不動産、物品賃貸、運輸・郵便などが高水準となっている。先行き(3月)については、製造業、非製造業ともに低下が見込まれている。

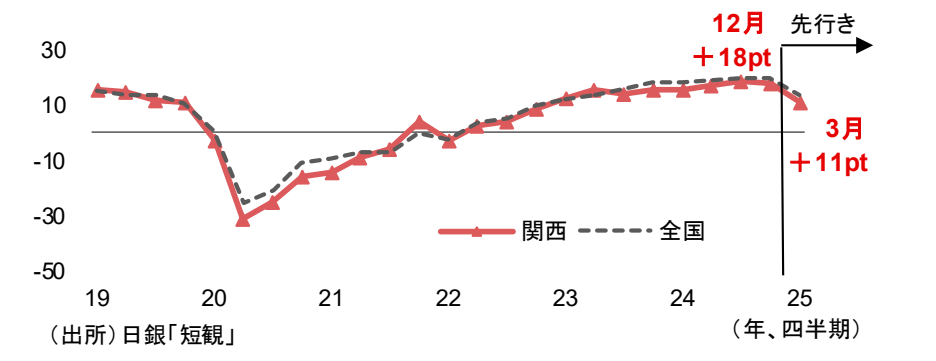
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



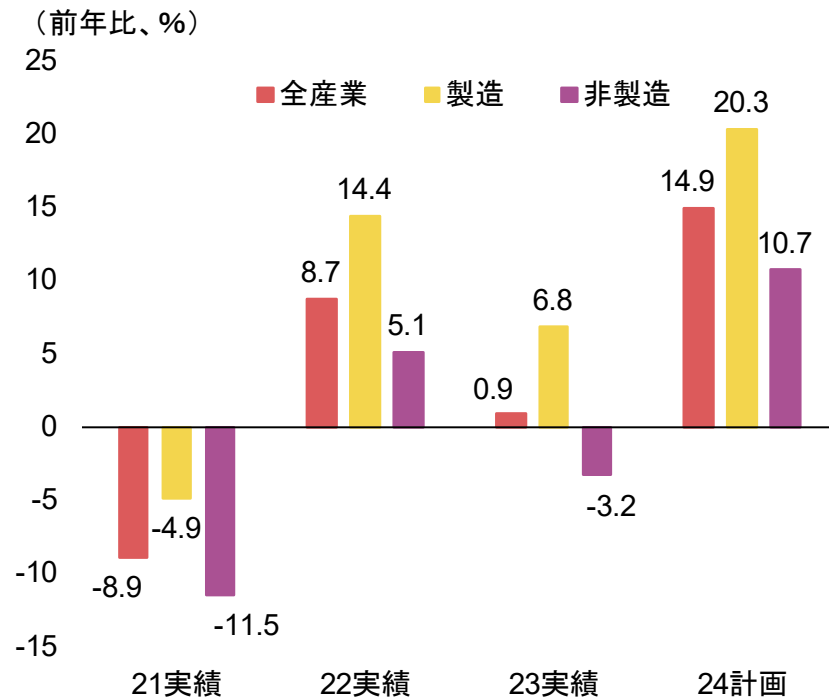
同 非製造業



設備投資

日銀短観12月調査によると、24年度の設備投資は、前回9月調査から下方修正となったが、前年比+14.9%と高い伸びが見込まれている。製造業では、はん用・生産用・業務用機械、金属製品等が、非製造業では、建設、宿泊・飲食サービス等が高い伸びを見込んでいる。

設備投資 実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

設備投資額(前年比%)

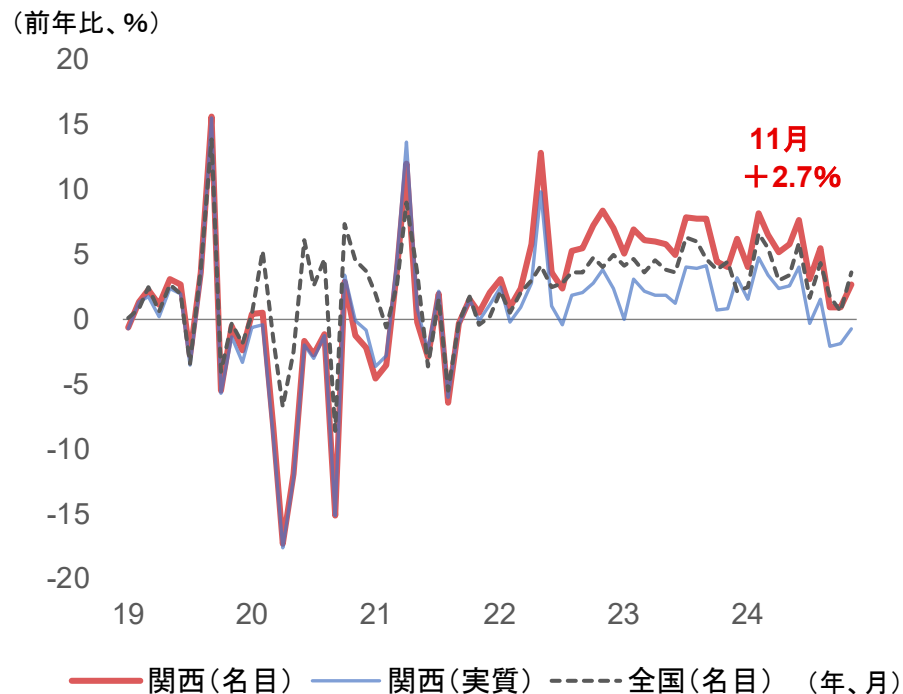
	23年度 実績	24年度計画		
		今回調査	前回調査 との差異	前回調査
全産業	0.9	14.9	(-2.2)	17.1
製造業	6.8	20.3	(-3.6)	23.9
非製造業	-3.2	10.7	(-1.1)	11.8

個人消費(小売売上、自動車販売)

11月の小売販売額(名目)は前年比+2.7%と38カ月連続でプラスとなった。実質値を試算すると、11月は前年比-0.7%と3カ月連続でマイナスとなった。

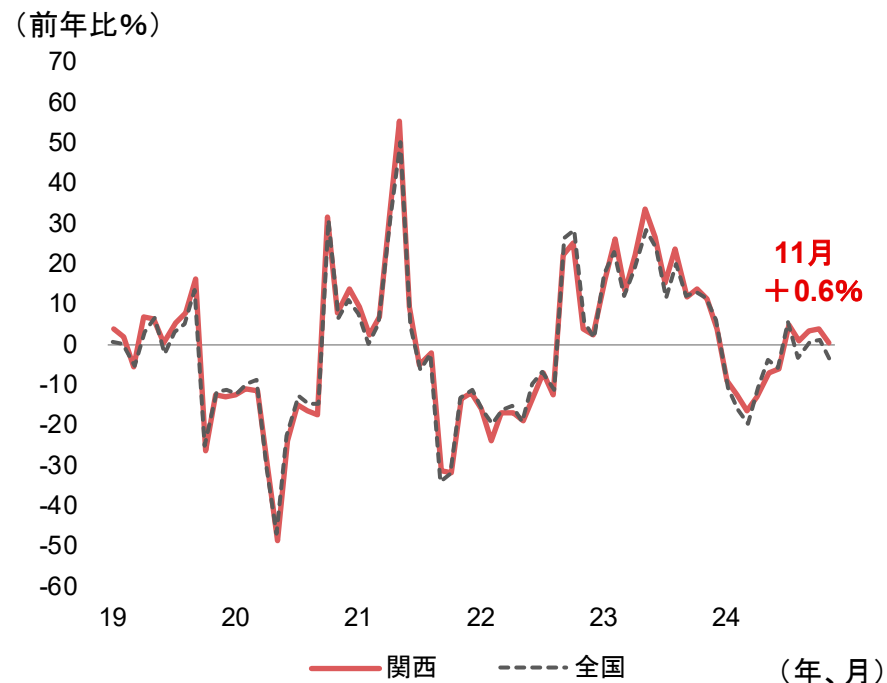
11月の新車販売は、前年比+0.6%と5カ月連続でプラスとなった。小型車、軽自動車がマイナスとなったが、普通車がプラスとなった。

小売販売額(6業態計)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算
(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

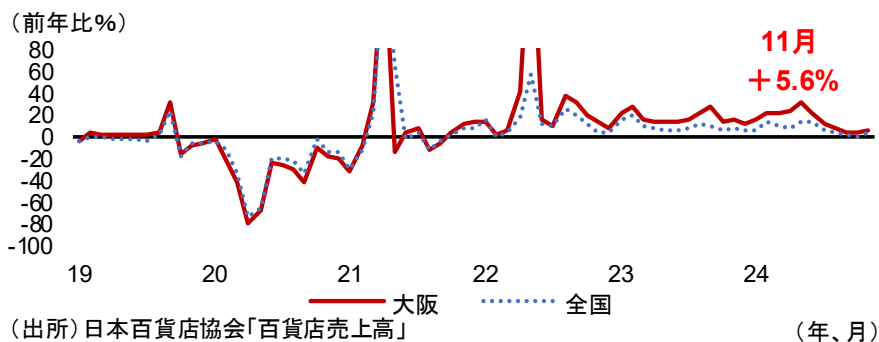


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

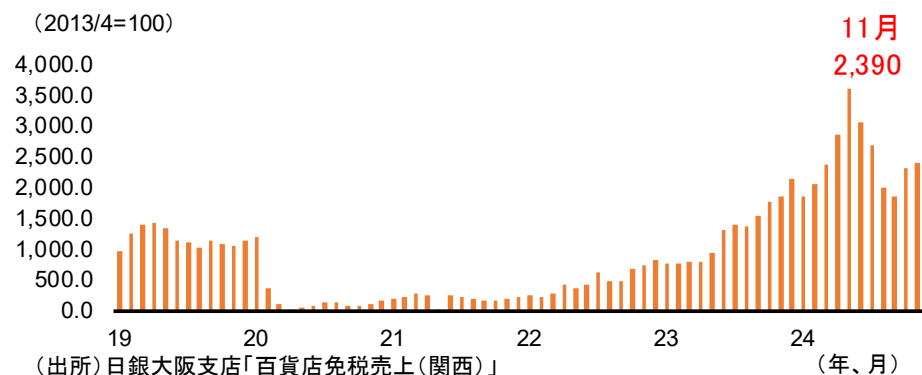
個人消費(業態別)

11月の百貨店売上(大阪)は、前年比+5.6%と38カ月連続でプラスとなった。11月の京阪神百貨店免税売上指数は前年比+29.2%増の2,390となった。

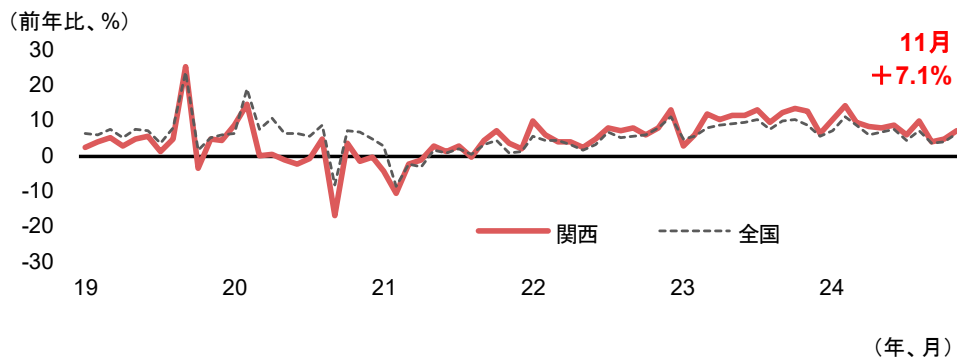
百貨店売上高



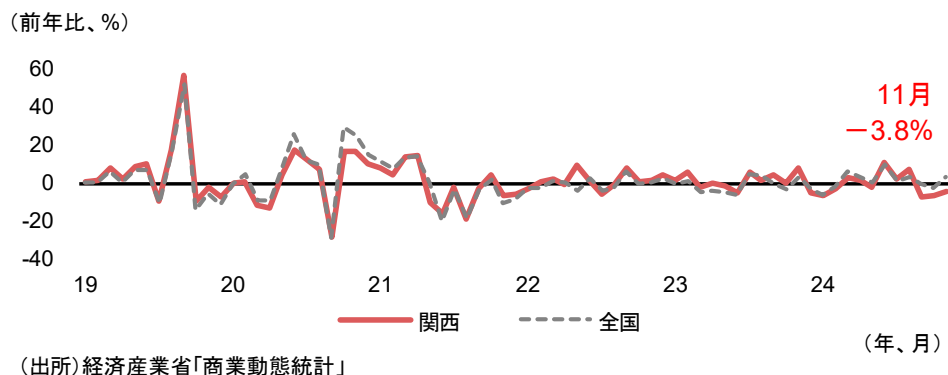
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

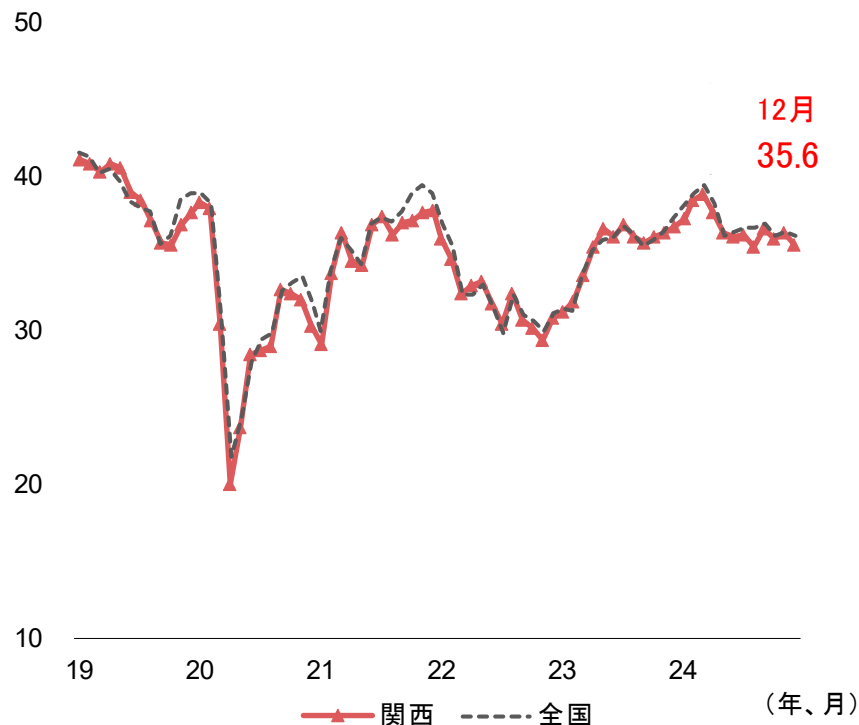


マインド・景況感

12月の消費者態度指数(季節調整値)は35.6と2ヵ月ぶりに低下した。

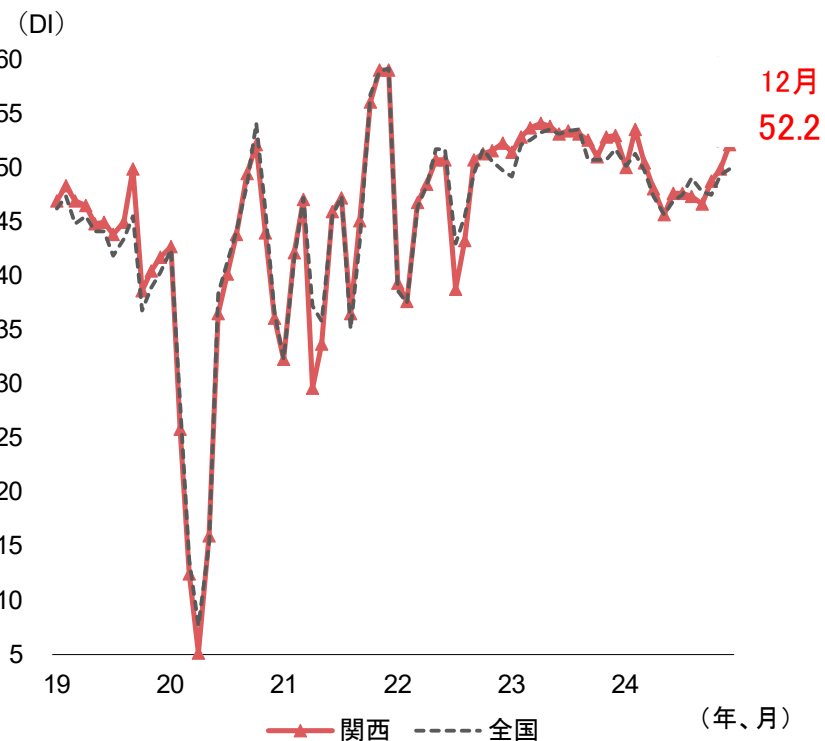
12月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は前月差2.3pt上昇の52.2となり、横ばいを示す50を9ヵ月ぶりに上回った。物価上昇による節約志向の高まり、コストアップを指摘する声がある一方で、インバウンドの回復、気温低下による秋冬物の売り上げ増などが景況感を引き上げている。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

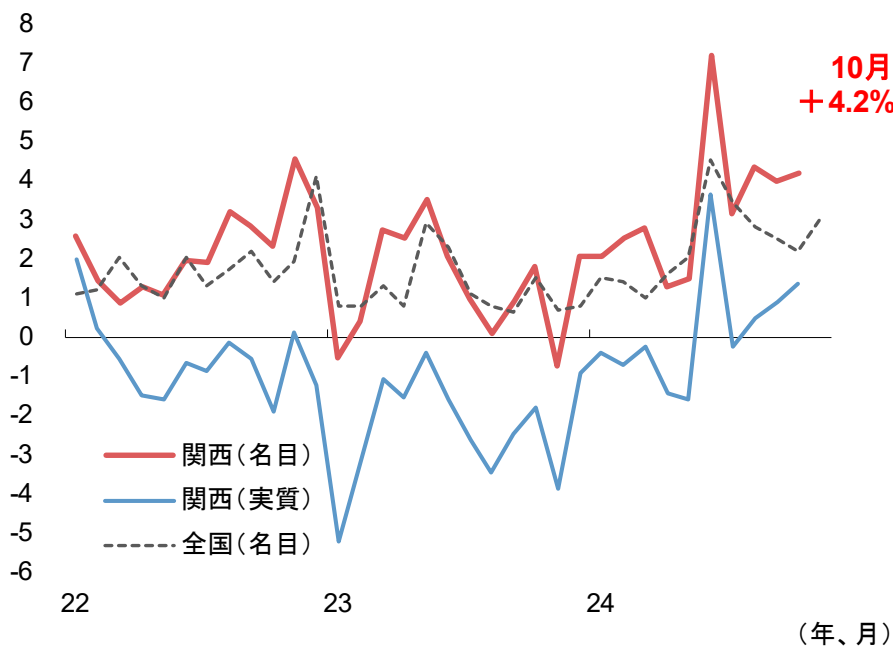
10月の関西の名目賃金指数は、前年比+4.2%と11カ月連続でプラスとなった。実質でも同+1.4%と3カ月連続でプラスとなった。

11月の有効求人倍率は1.15倍と前月と同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

24年7-9月期の失業率は2.7%と前期から小幅上昇、就業者数は増加した。

名目賃金指数

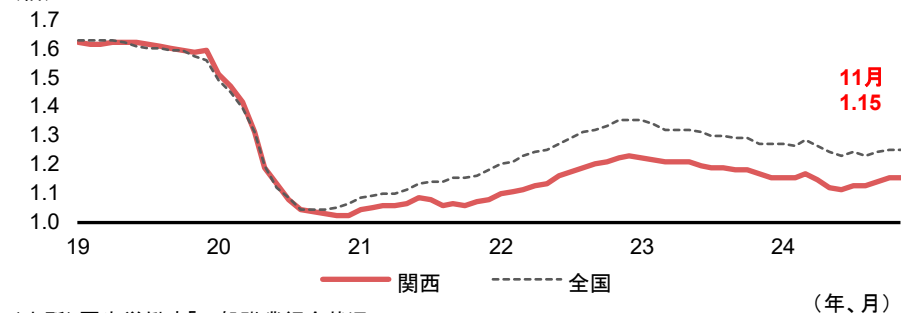
(前年比、%)



(出所) 関西2府4県の名目賃金指数(現金給与総額)、常用雇用者指数よりMURC作成
(注) 「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

有効求人倍率(季節調整値)

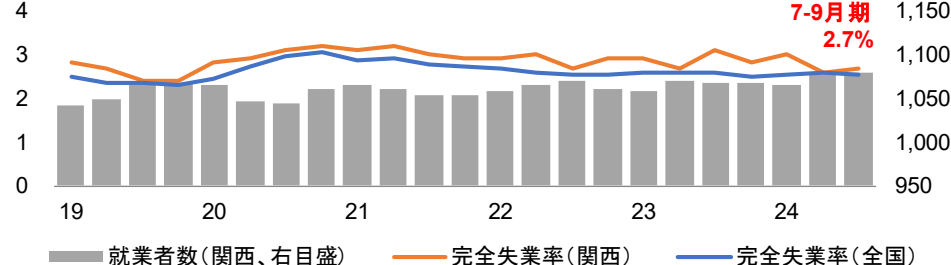
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

(%)

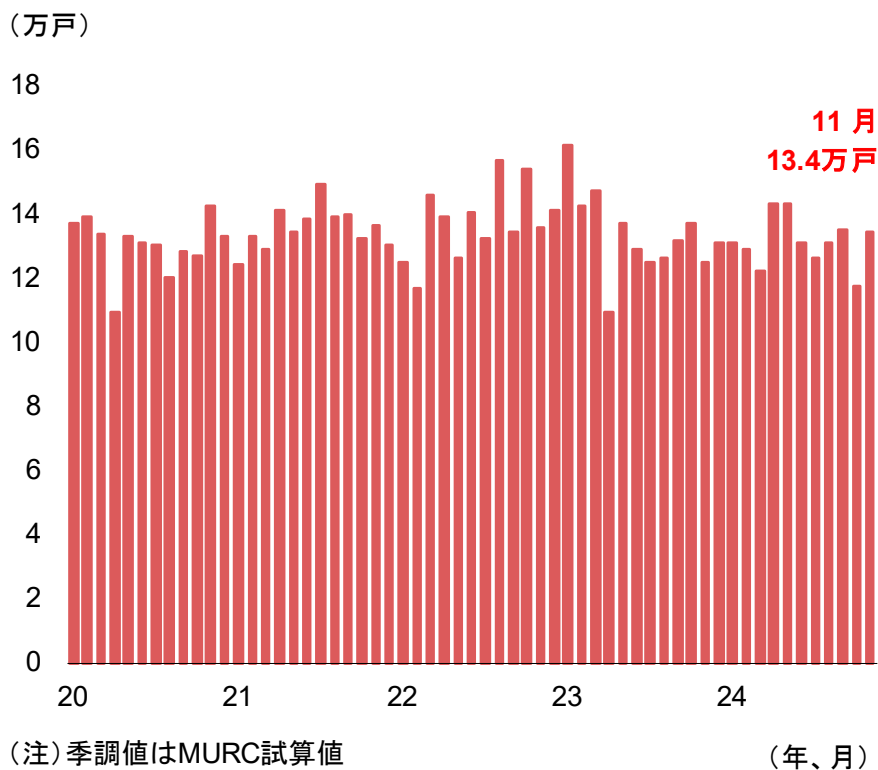


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

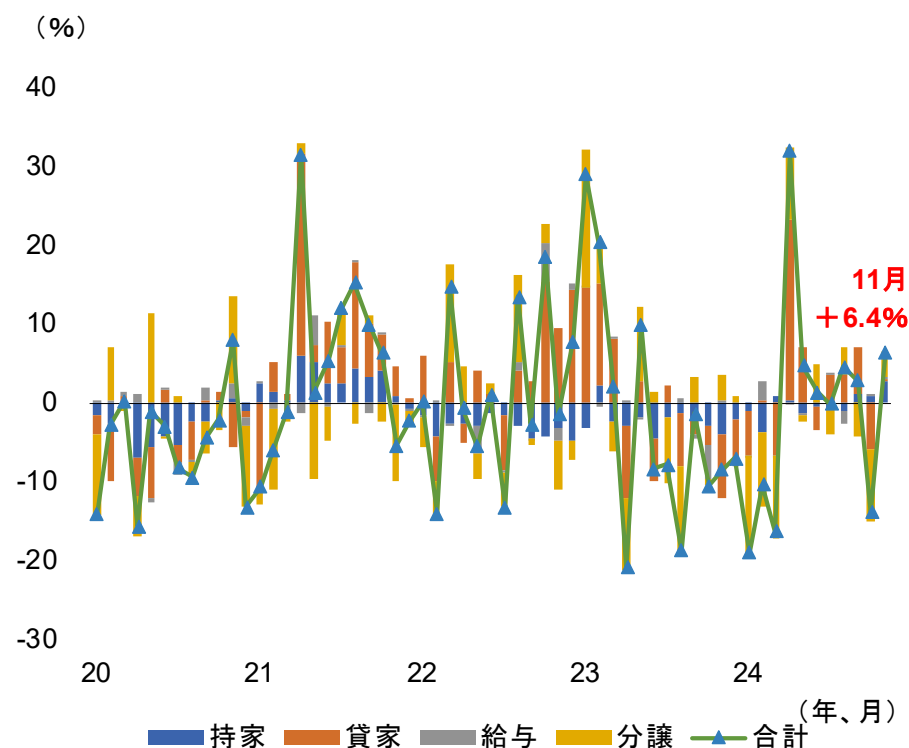
11月の住宅着工は、季調・年率13.4万戸と2ヵ月ぶりに前月比で増加した。前年比では、分譲戸建を除いて増加となり、全体で+6.4%と2ヵ月ぶりに増加した。関西の住宅投資は、均してみると横ばい圏で推移している。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

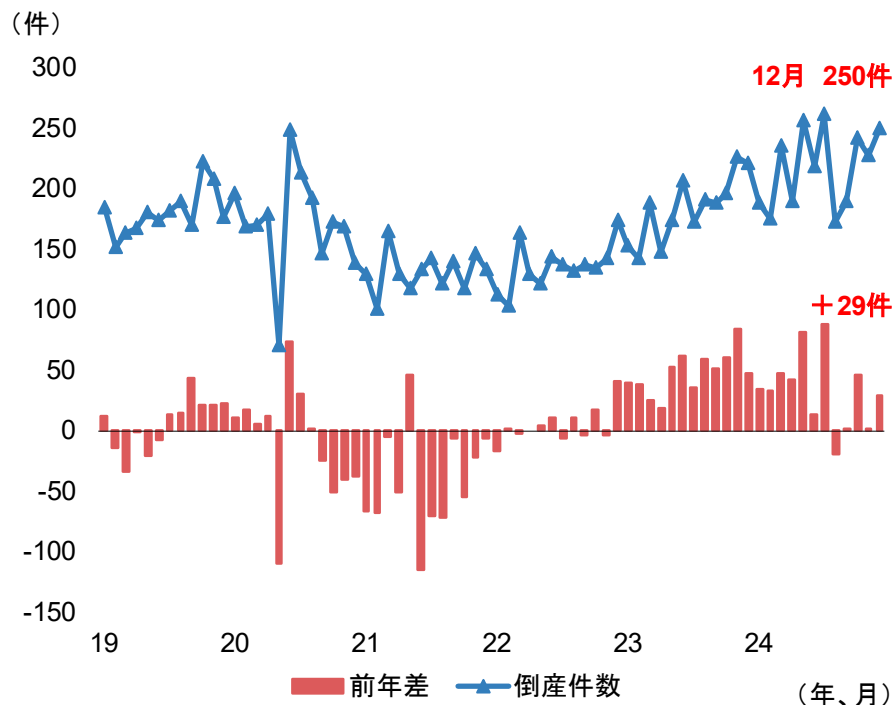


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

12月の倒産件数は250件と前年から29件増加。コロナ前も上回る水準となっている。

倒産件数

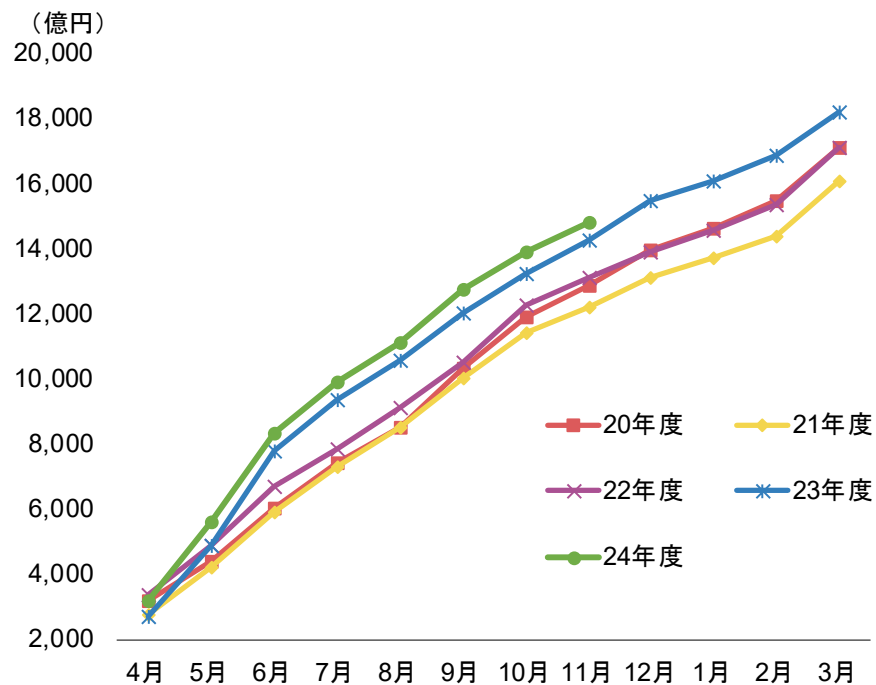


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

11月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+4.0%の1兆4,820億円。高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー